

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム・新港 2階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果確定日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成28年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の診療所との連携で、24時間対応の医療のサポートを受けられることから、終末期の入居者様を手厚く介護し、ご家族にも安心してもらっています。スタッフは、入居者様一人ひとりの状況、変化に個別に対応し、個々の希望に添うように努力し、今期のグループホーム新港の目標でもある「介護力を高め、入居者中心の支援をする」を実践しています。年間を通じて季節の祭りや行事に、参加したり、外出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基に、毎年事業所の目標を設定し、それに沿って各職員が一人ひとりと今年の目標を決めている。各ユニットの主任が職員面接を行い、目標を達成できたか話し合い、所長に報告する等、理念を実践に繋ぐ体制が整っている。職員用の意見箱を設置して、「意見箱通信」に意見や提案に対する回答を掲載して配布する等、職員の意見や提案を運営に反映する体制があり、職員同士の信頼関係の構築と事業所のサービスの向上に繋がっている。医療との密な連携は入居者と家族、職員を支え看取りへと繋がっている。理念に沿った日々の支援と職員間の信頼関係、医療関係との密な連携、入居者との会話を大切にする姿勢は事業所の強みであり、今後が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスに合わせて作られた理念を具体的に実践する為に、GHの目標を毎年、前年度の課題を踏まえて設定し、職員が実践するようにしている。また、個々の目標も、その目標に合わせて設定している。理念、目標は事務室、リビングに掲示している。	法人の理念を基に、事業所独自の理念を全職員で考え作成している。毎年、事業所の目標を設定し、それに沿って各職員が一人ひとり今年の目標を決め、毎日の支援に活かしている。各ユニットの主任が職員面接を行い、目標を達成できたか話し合い、所長に報告する等、理念を実践に繋ぐ体制が整っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は前年度までしていた夏祭りは実施しなかった。	地域の花火大会やペーロン見学、小学校運動会の応援に毎年参加する、近くの公園の掃除に入居者と共に参加する、事業所の敬老会やクリスマス会に地元のボランティアが参加する、事故防止の取り組みとして、近くの交番と協力体制を整える等、常に地域住民との相互関係を構築できるように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公園清掃活動に参加できるように、自治会の方に連絡をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、事業所の年間計画、進捗状況を報告している。今後の課題についても説明し、自治会代表、家族代表、市担当者と意見交換し、アドバイスを受け、サービス向上に活かしている。	事業所の取り組みや課題を話し合い、地域の理解を得ることや地域との情報交換を目的として開催している。地域包括支援センターや児童・民生委員、自治会長等の参加があり、市から災害避難時に関する提案を受ける、自治会や消防団の防災訓練の情報を得る、避難場所として事業所を提案する等、双方向的に意見を出し合い、サービスの向上に繋いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通してサービスの向上につながる具体的な意見を頂き、事業計画に活かしている	地域包括支援センターが開催する「地域ケア推進会議」に参加し、市と連携して地域の他職種と顔の見える関係を構築している。また、運営推進会議においても市からの提案を受ける等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組み、定期的に内部研修を行ない、全員参加し徹底している。	虐待防止の内部研修を年1回開催し、柔らかい言葉での声かけやベッドからの転落を防ぐための工夫を話し合う、転倒予防のグループワークの研修で職員の支援方法を確認する、日常の支援の中で主任や所長に相談することで抑圧感のない暮らしを支援している。また、家族との連絡を密に行い、予測されるリスクを率直に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年、内部研修を実施し全員が参加し、防止に努めている。また言葉による虐待についても、職員個々の目標に、皆が議題に取り入れ注意するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で、成年後見制度の研修に参加し学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に時間をかけ、十分に説明を行ない、不安が残らないように意見や質問を受け、納得を得て契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、ご家族と、面会時やケアプラン説明時にコミュニケーションをとる努力をし、必ず意見を聞くようにしている。意見箱を施設玄関エレベーター横に設置している。	運営推進会議や面会時に、家族の意見や要望を聞く努力をしている。家族から出された意見や提案は前向きに受け止め、主任会議で検討しサービスに繋ぐ体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見、提案を聞くように努めており、「意見箱」も設置している。意見、提案の返答は必ず行われている。	所長や主任に相談しやすく、職員同士で意見を言いやすい環境が整い、職員間の信頼関係が構築されている。職員用の「意見箱」が設置され、職員から出た意見や提案を受けて、職員にアンケートを取り、その結果を踏まえて意見を運営に反映している。職員の意見や提案に対しては「意見箱通信」で回答し、職員に配布している。運営に関する職員の意見や提案を反映する仕組みがあり、職員の働く意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度が実施され、個々の職員の自己評価、目標面接も行われ、各自の状況を把握することに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じたキャリアアップにつなげる講習や内部、外部の研修への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域包括支援センター実施の研修など外部研修や実践者研修、リーダー研修等を通じて交わりを持つようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の介護度、状態を把握し、新しい環境で生活していく上で、不安なこと、出来ないこと等を詳しく知る為、自ら話される方は話を傾聴し、要望等聴くようにしている。話されない方はその状態等詳しく知るように努め、緊張が和らぐように、少しでも早く信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と時間を設け、本人の状況について話し合い、心配事、要望、希望を聞き取るようにし信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談、入居時の段階で早急に必要な支援を見極め、他科受診も含めてサービスに導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を把握し、自立心を尊重しながら、身の回りのことや、家事の手伝い等出来ることは、無理のない範囲で、積極的にしてもらい、職員が手を出し過ぎないようにして、少しでもやりがい、生きがいを感じられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や本人の状況に応じて、病院受診同行や散歩、外出、外食、食事の介助等、関わりを多く作って頂くようにしながら、家族と共に本人の支援をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚の方々が、遠慮なくいつでも訪問し、ゆっくりと時間を共有できるような、雰囲気を保てるようにをしている。その際、職員の対応にも気をつけ、また訪問して頂けるように接している。	家族や入居者との会話の中で大切な物やこだわりを把握している。読書が好きな入居者と本屋に行く、馴染みの美容室や自宅、墓参り、お寺にお参りに行く、美術館に行った帰りに外食する、近くの友人が訪問する等、地域との接点を持ちながら関係を継続させるための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がスムーズにいくように、座る位置を工夫したり、トラブルが発生しないように努めている。入居者が孤立しないように職員が本人の状態や性格を知り、傍に寄り添い、安心してもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は面会したり、ご家族の相談にその都度対応している。退所後も相談に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にこれまでの生活歴を知り、本人の生活の面での好き嫌いや苦手な事などを把握する努力をして、その後も本人の希望を折りに触れ聴くようにしていく。意志表示出来ない方は、ご家族の意向を聞き、本人の状況を考えその時出来ることをするようにしている。	日頃から入居者やご家族の気持ちを聞き取り、信頼を深め、介護や食事の場面、日常生活の支援に生かしている。表情や態度などでも思いを汲み取り、心地よく過ごせるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人、ご家族からの話を聞き取りフェイスシートを作成し、職員全員が把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に本人の状況を出来る限り、詳しく記録するように努め、状況の変化時は、申し送りノートにも必ず記入し情報の共有をしている。モニタリング、会議等でも職員が一人ひとりの変化、状況を把握するようにしている。会議の記録を必ず残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングで本人の状況を確認し、職員全員で課題について意見を出し合い目標を立て、介護計画を作成し実行している。状況の変化時にはその時に応じモニタリングを実施して見直しを行なっている。	計画担当者の他に入居者の担当を決めている。介護計画に沿ってモニタリングや日頃の様子を確認をし、職員全員で次の目標付けにつながる様にしている。日誌も日頃の様子もわかりやすく職員同士が把握できる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には様子を出来る限り詳しく記録するようにし、職員の気づき、気づきの結果に行なった方法等を書き込むようにしている。職員間でその方法を実践したり、モニタリングで再度検討し、利用者の情報を皆で共有するようにしている。しかし気づきが少ないのが課題になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の新たなニーズを話し合い、皆で工夫して色々な方法を試し、本人の一番いい状態に近づけるようにサービスに取り組んでいる。ご家族の状況や事情にも対応出来る限りの支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りの花火見物の際の場所を提供してもらったり、敬老会やクリスマス会に、近隣からボランティアの演劇を頼んで楽しめるようにしている。普段は、近所のスーパーに買い物や、公園に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の訪問を受けている。併設の診療所を利用する方が多いが、他科受診時には通院同行している。	入所時に以前からのかかりつけ医からの変更があれば紹介状を取り交わし治療に支障が無いようにしている。1週間に1度の往診や他の病院への受診は職員が付き添うなど支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所の看護師により24時間体制で相談、連絡、報告をすみやかに行なっている。看護師の定期的訪問で体調観察も実施されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は同行して病院との情報交換をしたり、早期退院できるように入院中に経過の情報を頂き相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについての家族の意向を聞くようにしている。重度化した時は、主治医の説明の下、家族と話し合い、意向を確認し今後の介護方針を決め、全職員で支援するようにしている。	入所時や終末期に医師と意思確認、説明を行っている。夜間も夜勤者以外に当直や看護師がおり、24時間体制で入居者に対する支援を整えている。ターミナルケアであっても介護職員も安心して支援が行える体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時の対応の訓練をマニュアル作成し毎月行っている。応急手当、AED取扱も定期的に研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所の総合避難訓練、自主避難訓練、通報訓練、消火訓練を定期的実施している。消防署立合の訓練では課題を指導してもらっている。事業所全体の職員にメールで一斉送信される体制を整えた。	同一建物の中に病院や入院施設があるが、避難訓練を単独で行ったり、法人全体で行い協力体制を整えている。2日間分の缶詰、水、毛布など備えており、近隣の施設職員には連絡網など早急に支援が行える体制を整えている。	地域住民との連携を深め、災害時などに協力体制が整えられるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を保ち、丁寧な言葉使いで関わるように、声の大きさやトーン、速さ、分かりやすい言い方等、一人ひとりの状態に合わせて言葉かけができるように、努めている。またプライバシーに配慮する対応を心掛けている。	日頃から尊重の心を忘れず入居者一人ひとりに丁寧な声かけをしている。服薬時にも目の前で確認したり、排泄時はさりげなく支援ができるよう職員全員が取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の色々な場面で、本人に尋ね、意思を確認している。意志表示出来ない方は、その方の思いをくみ取るように心がけ、より良い状態で生活できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態、特にそれぞれの方のペースに合わせて介護していくようにしている。職員の人員不足で、出来ることに限界があるが、出来る限りお一人ひとりの生活リズムに合わせて、生活できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪をし、離床時には必ず、清潔な衣類着用で、身だしなみを整えている。外出時には本人の意向も聞きながら、帽子やスカーフなどで、おしゃれを少しでも楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、元気に少しでもおいしく食べられるように、一人ひとりの嗜好、食事形態、分量を見直しながら、ゆっくり食事してもらうようにしている。食器の下膳、洗いやお盆、食器の拭きあげは出来る方をお願いしている。	入居者一人ひとりが食べやすいように工夫している。事業所内でも手作りおやつやたこ焼き、鍋パーティーを企画し入居者の方と野菜を刻んだりし、楽しく食事が行える雰囲気作りを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を毎日記録し、確認している。水分を摂りにくい方はとろみ剤で飲み込みやすいようにし、お茶等あまり好まない方には、ジュースなど味を変えるなど工夫している。制限のある方、栄養状態の問題がある方には栄養士に相談し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、個々に応じた口腔ケアを実施、義歯は夜間に洗浄剤で清潔にしている。自分で出来ない方、十分に汚れを取れない方のケアも、それぞれ舌ブラシ、口腔スポンジ、歯磨きティッシュ等で安全に行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、リズムに合わせ、トイレ、P/wcへの声掛けのタイミングを計っている。オムツ使用者はパット交換の間隔、使用する種類なども詳しく職員間で話し合い、本人に無理のない程度でトイレでの排泄とベッド上でのパット交換を合わせる等工夫している。	入居者一人ひとりの排泄の状態をチェックしており、トイレに連れて行くことを基本としている。職員同士が話し合いお一人ひとりの状態に合わせ、ポータブルやおむつ交換など共通した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方に、はぶ茶等腸の活動を促す物を摂ってもらったり、水分不足にならないよう記録もチェックして対応している。排泄表、排便表も必ずチェックし適時、処方された便秘薬服用、浣腸をして、便秘が長引かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回体調に合わせて入浴している。人員不足で、午前中に入浴している。ユニットバスだが、年末には全入居者が湯に浸かれるようにしている。皮膚の弱い方、乾燥、疾患のある方には低刺激の石鹸を使用している。シャワーのみの場合は足浴を実施し、冷えない工夫をしている。	週2～3回定期的に入浴が行われている。必要時はいつでも入浴ができる体制を整えている。シャンプーやリンス、ボディソープ等好みのものを使える。入居者に応じて入浴方法を検討し共通した支援と楽しく入浴ができる工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の体調に合わせ、日中も傾眠強い時や車イス座位が長い時は適時臥床してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をチェックし、内容を把握している。薬変更時も体調観察し、適時主治医に報告、相談し、指示を受けている。誤薬防止の為、服薬前に必ず複数で薬の確認し、服薬時も飲み込み確認し、安全に服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅でしていたマージャン等の趣味を自室で楽しんで頂いたり、一人ひとりの残存能力、得意な事に合わせ、家事手伝いを分担したり、テレビ視聴や音楽鑑賞を好きな時にしている。歩行運動で戸外に出たり、気分転換できるように近所を散歩している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間通してイベント時の外出やドライブを計画し、特別な時間を作るようにしている。普段は天候をみて近所への散歩に出掛けしている。家族が散歩や自宅への一時帰宅や外食に誘ったりしている。	日頃から近くの公園など散歩に行く。夏祭りや地域のイベントに参加したり、職員と共に日頃の買い物に出かけたりする。家族とも協力して個別に外出する際、職員が介助をしたり積極的に外出ができるよう支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が無理な方はお小遣いを預かっている。外出時には自由に使えるように支援している。財布を自室に置いて安心する方はその希望に沿っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する時に電話使用してもらっている。電話の操作ができなくなった方は、掛けて会話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて家具の配置や座席も変えている。殺風景にならないよう写真や花、壁面を幼稚過ぎないように飾り付けをしている。排泄の臭いは速やかに換気し、消臭している。常時、温度湿度をチェックし、特に冬場は乾燥対策に加湿をし、快適に生活出来るようにしている。	入居者同士で作った作品を掲示したり、季節感のある装飾を行っている。椅子の配置を工夫し、ゆっくりくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イス、ソファに自由に座り場所を共有したり、相性が合わない方への配慮に気をつけている。不穏になる方は、他者から少し離れて、静かにゆっくり落ち着ける場所で、職員と一緒に過ごしたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で馴染みの家具やテレビ、飾り物、写真、好きな花等を置き、殺風景にならないようにして、自室での安心感が得られる空間を作っている。	季節を感じられるような装飾を行っている。エアコンの温度や加湿器利用し湿度も調整し心地よい環境を整えている。行事に参加している入所者の楽しい表情を写真に撮り掲示している。家族の訪問時は会話が進むよう雰囲気作りに心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩や車イス者に合わせ、動線が安全かを確認し、手すりや家具の配置をしている。浴室、トイレも手すりです安全に使用できるようにしている。それぞれの居室に名札、トイレにも札を掲示し、探す方が迷わないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム・新港 3階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果確定日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成28年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所と併設しているので、緊急時の対応が円滑にできている。医療ニーズの高い利用者様や終末期の方のケアについても診療所と連携してターミナルまで実践している。スタッフは常にやさしく寄り添うケアを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を掲げ、スタッフ全員がいつでも見れるように、リビングや事務所に掲示している。その理念に沿った介護を目指し、日々実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会の応援に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組み(外出やイベント等)をフェイスブックに載せ、誰でも閲覧できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、年6回開催し、毎回事業所の取り組みを報告している。その都度、参加者から出せれた意見を参考にし、運営に反映できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを報告している。また、所長が必要時に対応しており、関係は築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何かを理解し、拘束は行っていない。やむを得ず行う場合は、ご家族に説明し、同意を頂き、期限を決めて実施する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にスタッフ全員参加し、意識を高め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方は居られないが、内容は、ほぼ理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、所長が行い、理解・納得はして頂いている。入居時にはご本人やご家族の要望・疑問点を伺い、説明し理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、必ずご家族の意見や要望を伺うようにし、運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に面接を行い、意見を聞いたり、ミーティング時に話し合ったりしている。意見箱を設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度が導入され、給料の見直しが行われている。日頃のコミュニケーションを心がけ、体調面の声掛けや職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践で、各職員の個性が活かせるように事業所内外で行なわれている研修会に参加するように声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を声掛けをしている。研修会に参加し、情報を報告し事業所でも取り組み、質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を職員間で共有し、日々コミュニケーションを図り、ご本人の話を傾聴し、笑顔での対応を心がけ、安心して生活していただけるよう信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の要望を伺っている。また、面会時には必ずご本人の状況を報告し要望を伺い、信頼関係が気づけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望をよく聞き、ご本人の状況をよく観察し、ケアカンファレンスをし、必要としている支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の得意な事(家事手伝い、裁縫等)を職員と一緒に協力しながら行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での行事の参加の呼びかけを行い、ご家族と一緒に同じ時間を過ごして頂き、共にご本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はまれであるが、来られた時は楽しい時間を共有して頂くよう努めている。関係が持続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が上手いように職員が仲に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり方でご本人の意向を把握し、意思表示が困難な方は、ご本人の立場になり検討し、可能な限り思いの実現に向けて努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やご家族に話を聞き、フェイスシートを作成し、全職員で共有し、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌にその日の過ごし方、変化、気づきを詳しく記入し、全職員が共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月に1回、モニタリングを行ない、全職員の気づきを話し合い、ご本人の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護日誌に、センター方式を取り入れ、日々の様子や気づきを記入し、職員全員で共有し、モニタリング時に現状を評価しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じたニーズの変化にあわせ、柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の運動会の見学に行ったり、地域の方から場所を提供して頂いて花火見物をしている。又、近くのスーパーへの買い物や公園までの散歩等、楽しむ事が出来るように支援している。月に1回ボランティアの方によるフットマッサージを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に4回往診があり、健康状態を見て頂いている。また、必要に応じ他科受診の支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所併設の為、24時間体制で看護師とも連絡が取れ、体調変化時には適切な処理が受けられるように支援している。月2回医療連携で看護師の訪問を受け相談や助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を提出し、情報交換や相談が出来るように努めている。入退院時には同行している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人、ご家族からの意向を伺い、重度化や終末期には主治医より家族へ説明後、改めてご家族の意向を伺い、方針を共有しチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回、緊急時対応訓練を行っている。また、内部研修等で、AEDの講習を受け、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	総合避難訓練、通報、消火器・消火栓の取り扱い、誘導訓練等を行い、知識や技術の習得に努めている。訓練では消防署の方や業者の方に協力して頂き、指導して頂いている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思を尊重し、丁寧な言葉使いで声かけし、誇りやプライバシーを守るように気をつけ対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず聴き確認し、自己決定が出来るように努めている。意思表示が困難な方は表情を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、無理なく過ごせるように、個々の思いや希望が出来る限り可能になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や整容は行っている。服装選びは出来る方は一緒に行い、出来ない方はご本人に合った物を選択するよう心掛けている。行事参加や外出時には特に気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状態に応じた食事形態や量で提供している。食器洗いや拭き上げ、お盆拭き等の片づけはして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を毎日記録している。状態に応じ延食したり、ご本人のペースに合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は出来る方は見守りを行っている。困難な方は個々に合った口腔ケアを適時行っており清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じて、排泄の声掛けをしたり、トイレ誘導を行なっており、パット使用の軽減、自立排泄に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をチェック表で確認し、行っている。おやつにヨーグルトや芋等を提供したり、下剤の調整や座薬を処方してもらい便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2、3回のペースで午前中の中の入浴を支援している。入浴中はご本人と職員の良いコミュニケーションの場となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせ、日中も休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、服薬時には2人の職員で確認し、さらにご本人にも確認して頂いている。下剤はご本人の状態に応じ調整している。眠剤は主治医と相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた仕事を役割として行って頂き、張り合いを持ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に出かけたり、スーパーや本屋へ行き、買い物ができるように支援している。また、初詣、ランタン、花見、花火、イルミネーション等季節に応じた外出が出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として職員が管理しているが、ご本人の希望で少額ではあるが、手元に持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の電話を理容し、ご家族との連絡を取り継ぐ支援をしている。ご本人の希望があれば、いつでも使えるように支援をしている。ご家族からの葉書や郵便物は届くが、入居者様から出すことはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節を感じていただけような壁飾りをしたり、温度、湿度の調整や電気の調整を行い、快適に過ごして頂けるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、畳、テーブルを設置し、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みや必要に応じた物を持ってきて頂くよう、ご家族に相談して、居心地良く過ごせるよう工夫している。テレビや写真、ご位牌を置いている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に応じ、「できること」、「わかること」をみつけ出し、その力が発揮できるような環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103726		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム・新港 4階		
所在地	長崎市京泊3丁目30番3号		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果確定日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4270103726-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心とあなたらしい暮らしを真心でお手伝い」という理念の下、笑いある穏やかな生活を送って頂ける様、日々、スタッフ一同支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア・玄関・事務所などに常に見えるように掲示しており、スタッフ間で理念を共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園の掃除、地域の行事などに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公園の掃除、地域の行事などに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開いている。年間行事などの報告を行い、自治会代表・民生委員・家族代表・市担当者と話し合い、でた意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者も来てもらい、意見交換を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。また、研修も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、スタッフ全員参加の虐待防止の内部研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受けているが、対象者がいないので、活用はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は所長対応で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃、本人に話をきいたり、家族様は面会時やケアプラン説明時に意見をちゃんと聴いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置しており、意見・提案を聴いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの状況を把握し、働きやすく・やりがいがあるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会などに参加し交流をもちサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いろいろな会話や観察により、気持ちや不安に思っている事を引き出し、優しく丁寧な声かけで安心、信用してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい環境を作り、要望・意向を聴き、スタッフ全体で考査し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の意見を聴き、その時に応じた必要な対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援ではなく、出来る事はして頂きながら、何時でも支えとなれる事を理解してもらいながら、コミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の近況報告書や面会時の口頭での説明にて本人の状態を理解してもらい対応などの相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの生活の中での人間関係などの情報を共有し、面会など来られた方との、時間を有意義なものにしながら、また快く来て頂けるような支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の性格をよく理解し、話している内容に耳を傾けトラブル防止に努めている。 また、声かけを行うなどスタッフが気を配り孤立しない環境を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された時や、他施設に移られた時でも、お見舞い・面会に行き、本人、家族様との関係を継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を理解できる様に話を聴き、また、見守りの中で状態の変化を把握し、スタッフ間で共有する様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様に聴いたり、サマリーやフェイスシートなどの書類等で確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりよく観察し状況を把握したり、介護日誌・申し送りノート・個人メモを活用しスタッフ間で情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、全員参加のミーティングを行い、意見・アイデアを反映した介護計画書を作成し、家族様にも説明、意見を求めよりよい計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・申し送りノートに全員が目を通し口頭での申し送りを行う事で、情報を共有しケア・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してフロアスタッフ間で話し合い、フロア内で対応できない時は所長・施設長などにも話を持っていき、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には出来る限り参加していただき、楽しむ事で、心身の充実を図り暮らしを豊かに出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している診療所の主治医の往診や、家族様・スタッフ同行による他科受診により家族様、本人の希望できる適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化、気づきを併設の診療所看護師に伝え適切な受診や、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は様子がわかるスタッフが付き添い病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から直接、家族様に説明してもらい、家族様の希望にそった支援をしている。また、ターミナルケアの方針はスタッフ全員が情報を共有し、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、マニュアルにそった行動が出来るよう研修・訓練を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	通報訓練・消火訓練・誘導訓練など行い、災害に備えている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安心できるよう、傍に行ってゆっくり話をしたり、人格を尊重・プライバシーに配慮した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら、本人の意思を尊重し自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムをしっかり把握し希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を本人に選んでもらったり、身だしなみも出来ない所は介助し、清潔が保てるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態にあった食事を提供し、食器洗い食器拭き・トレー拭き・配膳などできる方にして頂き、食事中は献立の話などでコミュニケーションをとり食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量・食事摂取量を記録し状態の変化に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い出来ない所を、スタッフが支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難な方などは、出来るだけ自力で排泄できるよう支援し、失禁しないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、排便の有無を確認している。また、併設の診療所と連携を図り便秘薬や必要に応じ座薬施行し、個々に応じた対応で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ、コミュニケーションをとり体調、要望に配慮しながら声かけし無理強いせずに行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内を適温にしたり、寝具の清潔に気を配ったり、寝返りが出来ない方の体位変換を行ったりと、よく眠れるように個々の状態に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、個々に応じた薬の目的・効果などを把握している。服薬時は必ず2名で呼称確認し誤薬のないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活リズムをが出来るように、コミュニケーションをとりながら家事手伝い・テレビ視聴・散歩などをし、また、歌を歌ったり、折り紙をしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限りフロアから出れる様に散歩・他フロアに遊びに行ったり、季節の催しものの参加が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方はおこずかいを預り、鍵のかかる場所に保管している。買うものがあれば、一緒に買い物に行きお金を払ってもらったりしてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればフロアの電話でスタッフ介助で電話してもらっている。手紙が届けば本人に渡しているが返事は書かないので送ってはいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けをしたり、温度・湿度の管理をし、匂いなどで不快な思いをしない様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やくつろげるソファなど、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が居室のレイアウトをされたり、使い慣れた物・好みの物を持ってこられたり、写真・絵なども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の安全を確保し、個々の出来る事はしてもらい、なるべく自立した生活が送れるようにしている。		